

# 平成青木時報

2014年（平成26年）6月1日 第10号 発行：平成青木時報編集部 題字：三四六

## 「まわれ回り舞台！」皆の想いをのせて イベントを実現させた立役者たち

2014年3月9日、青木村杵掛にある宮淵神社にて、「神楽殿サウンドフェス」が開催された。同神社には村指定文化財の神楽殿があり、江戸時代に造られた回り舞台を備えている。幼少期に体験した奉納芸能を復活させたいという編集部の想いで26年ぶりによみがえった。義民太鼓保存会、下奈良本神楽保存会、小学校の金管バンドなど、村内外の団体が快く出演してくださり、観客は200人近く大盛況だった。

その陰には人知れぬ闘いがあった。2月14日、関東甲信を襲った大雪被害である。神社周辺はすっぽり埋め尽くされ、日程が近づいても雪は溶けず、舞台は高台にあるので重機は入れない。イベント中止の声も上がったが、「諦めたくない、人の手でできるところまでやろう」代表の決断だった。



義民太鼓保存会の演舞



青木小学校、金管バンドの演奏



神々しい舞の神楽

硬く凍った雪にスコップが刺さらず苦戦していると、村の方々が一人、また一人と応援の手を差し伸べてくれた。おかげで客席を確保でき、駐車場は教育委員会の協力で除雪して頂いた。雪かきではなくまさに雪割り、皆の手のひらはマメだらけだった。

また、イベント当日、観客席から見えない場所に助っ人がいたのをご存知だろうか。舞台の下、奈落と呼ばれる場所では、手伝いの方々が力を込めて回り舞台の軸棒を回していた。重厚な木製の舞台に役者がのる、かなりの重さであった。文字通り「縁の下の力持ち」だ。

出演してくださった。パフォーマーの皆様、観客の皆様はもちろん、見えないところでイベントを支えてくれた大勢の皆様に、この場を借りて心より感謝を申し上げたい。(山唄)



舞台前の雪を割っての除雪作業



奈落にて回り舞台を押す様子

青木時報を学ぶ

大正 12 年 7 月 1 日 第 20 号より抜粋

青木時報

號〇二第

行發日一月七年二十正大

地方青年の魂
左の一文は、栗林農夫君が六月六日の時事新報に書いたものである。

地方青年の爲に

一日の紙上で、『日×居士』といふ人が『地方青年』の事を大變心配してをらばたことは、誠に有難い、といひたいが、ほんごうは『利口さうな馬鹿』といひたくなる。

なる程、地方の青年の知識はあやしいものであらう。『東京の専門學校』を出た人はあないかも知れぬ。しかし、それと同時に理窟ばかり知つてゐて、魂のないやうな手合も、さうだんとは居ないから安心し給へ。

知識さへあればごん人の講演をきいても迷はされぬと思つてゐたら大間違ひだ。もし然りとすれば、所謂知識のあるといふ都會の青年がどれたけの事をしつゝ、主として農村を指してゐる事であらうが、毎日大地を踏んで生きてゐる農村の人間には、都會人の及ばぬ力強い『魂』がある。

いかに、講演などをきいた時には動かされたと思ふであらう。けれども『感激』は行動ではない。未だ吾々農村の青年が經濟なる運動によつて、根柢のない行動をした事があるか？もし、萬一ありとするも都會に於けるそれといつれが多かつたか？

そ容易に盲動しないものである。もし彼等農民が一度び猛然として起つた時そこには知識以上の『眞』と『力』があるのである。農民は今その眞と力を黙々の中に養ひつゝあるのだ。故に彼等農民は、いかなる講演、乃至は宣傳、煽動、ありとするも必ず一ごたび之を攝取して自己のものとなし決して一方に偏して、感情的に盲動するが如き事は斷じて無いと信する。私は、最近まで農村にあつて直接青年會の事に關係してゐたものであるが今迄の實際の經驗上、決して現在の農村青年を以て知識なきが故に、さういふ如き理由をもつて見ざる事の出来ない事を知つてゐる。科學至上、知識萬能にカラ、たる所謂知識階級の中に、眞の農村を知らず農民に對してかゝの如き『侮辱の同情』をもつてゐる者の多いのは止むを得ざる勢であらうが、現代の農村青年にとつては、全く有難迷惑であり、無用なる老害心である。

地方青年の魂という見出し。地方の青年は東京の専門學校を出た人はいないかもしれないが、毎日大地を踏んで生きてゐる農村の人間には、都會人の及ばぬ力強い『魂』がある。と力強く書かれてゐる。そして最後に、地方青年の魂をもっと正しく活かして、そしてそれに『光』を、と締められている。

地区さんぽ～歩いて魅力を発見～#1「細谷区」

青木村にもまだまだ知らないことがあるはず…。そこで1号ずつ12の地区を実際に行つて散歩してみよう！という新コーナー。第1弾は細谷区。編集部員はあまり細谷のことを知らないというのと、そもそも「ほそげ」なのか「ほそがや」なのか？という疑問もあり、さっそく行ってみました。

まずは、北村彰啓区長にお話を伺いました。地区の名前については「ほそがや」とも「ほそげ」とも両方言うそうです。昭和12年にできた「細谷音頭」には、ほそがやと唄われているとのことでした。

この細谷音頭は、地元の栗林義人さん(M43年～S61年)の作詞、地元の花見茂三久さん(M32年～S14年)の作曲により、昭和12(1937)年に創作され、区民が歌い、踊り継いできた曲。青木村の中、



細谷音頭の歌詞の書かれた石碑

地区で音頭があるのは細谷だけ。昨年この歌碑が、地元の栗林明夫さんの寄贈により、公民館の敷地に建てられた(写真左)。歌詞は7番まであり、「桜の土堤」「蚕影の祭り」「祇園の祭り」など自然や文化が唄われ、最後は「嫁をもらうなら細谷からよ」「細谷よいとこハイハイ」などと結んでいる。今年も、5月3日の「八十八夜祭」で踊られた。そして室町時代から伝わる、村指定の無形民俗文化財である

「三頭獅子(みかしらじじ)」は、無病息災、五穀豊穰などを祈るもの。これも細谷の宝とのこと。さらに、「和院」そして「木こり」という2軒のお店もここ細谷。また、弘法大使の伝説が伝わる「弘法井戸」も教えていただいた。

現在53世帯が暮らす細谷区。「細谷音頭で唄われるように、隣近所仲良く笑つて明るく暮らせるような区であつてほしい」とお話いただいた。編集部員は教えてもらった「蚕影(こかげ)公園」と弘法井戸に行ってみました。薬師堂の脇の坂を上るとちょうどツツジが見頃だった。社に手を合わせ感謝した。取材のご協力、写真提供ありがとうございました。

次回の地区さんぽは、細谷区のお隣「夫神区」。夫神の情報や自慢などをお知らせください！(山浦)



薬師堂



細谷音頭の様子



三頭獅子



弘法井戸

## 気になる…「ファンキー・シャトーワイナリー」

青木村村松でワイナリーを営む金橋ご夫婦。ワイナリーを開くため信州に2006年転居。当初は上田市東山でブドウを育て、2010年にアイリス園跡地でブドウを植え始める。青木は縦長で高さの変化もあり、南向きの斜面で水はけがよく、ブドウの栽培に良くブルゴーニュ系品種に適している。降雨量も少なく、病気になりにくいとのこと。ぶどう造りに、農薬はほとんど使わずボルドー液と石灰硫黄合剤のみ。化学製品は最小限。防虫剤も使わず、虫との戦いとのこと。また、自然酵母自然発酵。酸化防止剤も最小限しか使っていない。そんなこだわりのワインの1つ、グリグリはセブンイレブン青木店で購入できる。

ワインはブドウで決まってくるため、いいブドウをつくることに全精力を注ぐ。「美味しくて面白いワイン。ワインは育てるもの。気持ちよく働いていて楽しい。」という言葉が印象的だった。

4月26日、5月3日、4日、10日の4日間、春の心地よい天気の中、「showcase 2014 spring open」が行われ、ワインの試飲や購入ができるイベントが開かれた。青木村にお世話になっているので、村の発展とPRにつなげたい。ゆくゆくは収穫祭もやりたい。まだまだ量が少ないので、量を作って皆さんの手元に届くようにしたいと熱く語っていただいた。

最新のニュースはホームページをご覧ください。[funkychateau.com](http://funkychateau.com)



温度調節された部屋



ワイナリーを見学



ロゴマークに子檀嶺岳



綺麗なワインに

## 観天望気

昭和45年から昭和55年頃、信越放送(SBC)の朝番組気象解説者としてラジオ出演し、また、月刊誌「日本の屋根」に信州の気象・防災・歳時記などコラムを主筆。気象協会本社では役員を最後に平成21年退任し、昨年からは青木村に在中という岩淵さんから、村の天候について寄稿していただきました。

6月は「梅雨」と呼ばれる雨季。この時期は農家では農作物の手入れなどで一番忙しい時期であるため、常に空を仰ぎながら仕事をしなければならない。こんな時は、観天望気の中で最も科学的で合理的な、的中率の良いことわざを選択して活用することが大切である。

ある気象学者は「気象学は雲に始まり雲に終る」と、雲を観察することは天気を予知する基本であると言った。だからその地域の山にかかる雲や霧によって天気を判断することわざが多い。

「夫神岳に横雲通れば雨」・「山腹に横雲引くのは雨」東信や中信地方を中心に「〇山(岳)に雲や霧がかかれば雨」「〇〇山(岳)に笠雲かかれば雨」などのことわざがある。

さて、一般に低気圧が接近し天気が下り坂に向かう時は、大別して絹雲(ほうきで掃いたような雲)→高層雲(うろこ雲)→乱層雲(黒い垂れこめた雲)という過程で変化する。悪天気をもたらす主役は乱層雲だが、その雨の前ぶれで層積雲や霧雲と呼ばれる層雲が発生することが多い。

ことわざで使われる、山腹にでる横雲や横霧といわれる雲は、層積雲や層雲の雨の前に出る雲のことである。ただ、同じ雲の種類でも天気の良い時現れる雲もあるので注意を。(岩淵登喜夫)



# 熱烈コラム

## なから

### 上小地域の日帰り温泉施設について

日帰り温泉施設が最も多い県は長野県であることを皆さんはご存知だろうか？確かにここ上小地域でも、少し車を走らせればかなりの数の日帰り温泉施設を目にすることができる。

私が特に着目している温泉施設は青木村付近にも多いが、最も好んで入浴させていただいているのが、上田市上室賀のささらの湯だ。上田市の西、室賀の山あいにある立ち寄り湯で、「美肌の湯・美人の湯」として親しまれている。泉質は、アルカリ性単純硫黄泉。毎分330リットルのお湯を毎日入れ替えているそうである。浴室は、檜風呂と岩風呂があり、最近新たに露天風呂が拡張された。美肌の湯とされるが故に、すべすべした泉質が肌に優しく、湯上がり後も持続するのである。施設内の雰囲気も素敵で、木の香りがする渡り廊下、バリアフリー設備も充実しており、お年寄りに優しい施設となっている。写真が多数飾られているのもいい。私がこの温泉を気に入っている理由は、泉質の良さもあるが、館内の雰囲気が非常に良いことが重要である。お休み処が広いのも嬉しい。

上室賀から少し車で移動すると青木村に着く。青木村で私が好んで入浴させていただくのが、田沢温泉の有乳湯である。有乳湯は、飛鳥時代後半の開湯となる伝統ある共同浴場で、昔から子宝の湯として親しまれ、乳の出の少ない女性にも効果がある湯としての由来からこの名がついた。値段も安く200円で入れる。ここの湯の特徴は、気泡が温泉内全体から発せられており、炭酸水のように全身にまとわりつく泡が肌に優しく、良い効能となっているのである。泉質は単純硫黄泉で、温泉の匂いもばっちりである。

ただ、最近温泉の専門誌などに書かれているのは、「こうした温泉に入った後は、体を流さずに出たほうが効能が長続きする」などということが書かれているが、私はこれは誤りであると思う。むしろ、しっかり洗い流したほうが温泉に入る際のたしなみとしても重要であろうと私は思うのである。もちろん、入浴前も同じである。

今回は紹介しきれなかったが、これだけ多くの日帰り温泉施設がある長野県に生まれ育ったのだから、しっかりと入浴のマナーを守って適切に温泉を楽しみたいものだ。

(U)

### 若者と政治

青木村夫神出身の上田市議会議員、林和明です。若者の政治離れが叫ばれて久しい昨今ではございますが今回の上田市の市会議員選挙では多くの若い世代が立候補しておりました。

青木時報も元々は青木村青年会が地域経済、政治に関心を持ち発信していくものでした。同じように平成の現代も、若者が政治に関心を持つことで地域が活気づくものと思います。

私も選挙に立候補するというのも全くの初めての経験のため、やり方もわからずとても苦労しました。しかし地域の多くの方に支えられ、地域を街を良くして欲しいという声を届けるためにやり遂げました。

この平成青木時報のメンバーも若い世代で構成されているわけですが、この活動を通じて村を良くしたいという思いで、日々この活動をしております。

一人ひとりの力は小さいかもしれませんが誰かが始めればそれがやがて大きな力になると信じております。改めて今後も平成青木時報をよろしくお願い致します。

(林和明)

### 田植え後の苗箱洗い、承ります！



お気軽にお問い合わせください  
堀内農園：49-3337

### 泥んこ田植えのお知らせ

○6/7(土)18時～ バーベキュー  
1人：1,000円、泊まり：1,000円

○6/8(日)9時～ 田植え  
1人：500円(お昼代)  
問い合わせ：堀内農園：49-3337

# 編集部員の

## 創作物語

このコーナーでは2つのキーワードを使い物語を創作しています。初回は「雪解け」「花柄」です。

### 『小花柄の妖精の雪解け魔法』

人間の世界には雪と言う小さな白い宝石が散らばっていた。小花柄のワンピースを着た、妖精のさくらが人間の世界に遊びに来た。白い宝石の雪を見た、さくらは『うわぁ。なんて素敵な宝石、お母様やお姉様にあげたい。沢山持って帰らなくちゃ』とワクワクしていました。さっそく、さくらは手に沢山の雪を優しくすくいました、けれど、雪は手のひらで水になってしまいました。さくらは何度もすくいましたが、何度やっても同じ。さくらは『どうして雪は解けてしまうの、持っていけないじゃない、お母様やお姉様に渡せないよぉ。』と泣いてしまいました。その涙は人間の世界の雪を全て解かしてしまいました。

さくらが泣き止むと周りには緑が広がり花が咲いていました。

さくらは『あれ。どうして雪はなくなったのかな。』と悩んでいると、さくらはハッと思い出しました。さくらの祖父の時桜が『雪は手に触れると解けてしまう儂い宝石じゃ、その風景をみんなに話をしたらきっと喜ぶから、けど、持ち帰ってはダメじゃぞ、人にあげる気持ちだけでいいんだよ。』と時桜が微笑んでいたことを思い出しました。

さくらは花を摘み首飾りとかんむりを作りました。お母様やお姉様に渡してあげるんだとワクワクしながら。さくらは妖精の国に飛んでいきました。そして、さくらが作ったかんむりや首飾りは喜んでもらえて嬉しかったんだって。人にあげる気持ちで心がポカポカになることをさくらは知って沢山のことをまなんだって。そして、さくらの涙は雪解け魔法って言う、人を思うチカラが強くなってかけられたみたいです。

さくらはそれを知らずに使えたみたい。この話は妖精の国の青い鳥のブルーに聞いた話です。

しおん (詩音)

## モンペ部へようこそ☆

農作業がイヤいや もったいない！里山ガールの必須アイテムモンペ。  
その隠れた魅力をお伝えします。

### 1、 通気性抜群

木綿なので、夏は涼しく、冬は重ね履きで温かい。  
作業用とオシャレ着で2枚お持ちくださいね。

### 2、 意外とカワイイ

柄、インツが流行っているのにおまかせください。  
短い丈のカボチャ型、裾の広いサルエル型などもあります。

### 3、 暑かったらまくれ！！

ゴムなので簡単に裾上げできます。これからの季節にぴったり。



道の駅で好評販売中です。品切れの際はご了承くださいm(\_ \_)m

とんぐりや

テレビで話題のココナッツオイル★活きた酵素と母乳成分ラウリン酸  
お料理・スキンケアに用途が豊富なココナッツオイル♪



ココナッツショップ バージル

上田市秋和1110-8 080-6937-9271

OPEN 10:00 / CLOSE 21:00 不定休

県内唯一の  
ココナッツ  
専門店



このコーナーでお店の広告や、〇〇募集！などのお知らせを掲載しませんか？

- ・1 枠(5cm×09cm)…3,000 円
- ・2 枠(5cm×18cm)…5,000 円

村内に全戸配布され、公共施設や上田市にも数か所に置かれるため、宣伝効果も大きいです。詳しくは編集部までお問い合わせください。

# あおきむらカフェ開催のお知らせ

青木村を発信企画。上田市のレンタルスペース CAMP にて、1 日限定のカフェをオープンします！飲み物・食べ物は青木のものを提供。そこで当日お手伝いしてくれる方や、自分の作っているものも出したい、売りたいという方を募集しています。もちろん、お客さんとしても遊びに来てください。詳しくは編集部まで。最新情報はホームページやフェイスブックにも掲載します。

日時：2014 年 6 月 29 日（日）12 時～17 時  
場所：CAMP（上田市中央 2-14-33）

- メニュー例
- ・ 信州そば一む
  - ・ リンゴジュース
  - ・ 杜仲茶、杜仲蕎麦
  - ・ お菓子
  - ・ ごはんもの

など

店内の様子



前号で紹介した、青木村が舞台になっているロボットマンガ、信州合体ナガノイザ（原作&メカ・背景、カムイコウジ氏、キャラクター、神北みゆき氏）。その記事をきっかけに、その後 FM 長野や長野県上小地方事務所のブログにも紹介されました。今回はこの平成青木時報に、カラーイラストを提供していただきました。さらに次号では 4 コマ漫画も…。次号や今後もお楽しみに！



## 編集部からのお知らせ

昨年度は多くの方の応援や協力での活動ができました。心より感謝いたします。

今年度も青年グループ「泥百笑（どろひやくしょう）」が、平成 26 年度長野県地域発元気づくり支援金を活用し、制作しています。

今年度は昨年度の反省から質の向上を目指し、発行を隔月にしました。その分、ページ数を増やし、多くの方に手に取ってもらえるよう、カラーにも初めて挑戦してみました。

今回は 8 月 1 日の発行となります。編集部員も募集中です。また、投稿などもお待ちしております。

まだまだ未熟ですが、今年度もよろしく願います。

ご意見・ご感想お待ちしております。 平成青木時報編集部 代表 山浦和徳

電話：090-2308-8270 メール：[aokijiho@gmail.com](mailto:aokijiho@gmail.com)

ホームページ：<http://doro100sho.jimdo.com/>

Facebook：<https://www.facebook.com/aokijiho>

Twitter：[@aokijiho](https://twitter.com/aokijiho)